

平成29年度 吉野町煉瓦倉庫演劇公演制作等業務

実施報告書（概要版）



なべげんわーく合同会社

1. 平成 29 年度吉野町煉瓦倉庫演劇公演制作等業務 朗読と映像でつづる野外劇『煉瓦倉庫ものがたり』概要

●公演名称

朗読と映像でつづる野外劇『煉瓦倉庫ものがたり』

●業務の目的

- ・吉野町緑地及び煉瓦倉庫における美術館を核とした文化交流拠点の整備構想の周知と機運醸成
- ・今後同時代アートを紹介する新たな文化拠点となる吉井煉瓦倉庫を主題にした参加型イベントの実施による施設開設への機運の盛り上げ、情報発信

●業務施行経過概要

(1) 公演日 平成 29 年 9 月 23 日 (土) 18 : 00 開演
9 月 24 日 (日) 18 : 00 開演

(2) 来場者数 平成 29 年 9 月 23 日 (土) 約 150 名
9 月 24 日 (日) 約 200 名
合計 約 350 名

●業務実施による効果

明治大正期からこの地にある吉野町煉瓦倉庫のこれまでの歴史を追い、これからを担う現在の若者たちに、吉野町煉瓦倉庫を建設し自らの利益のためではなく故郷の振興に生涯尽力した、福島藤助の情熱と偉大な業績、そして現在に至るこの地の歴史を知ってもらうことができた。

そして、今ここに静かに佇む吉野町煉瓦倉庫こそが、その精神と実績の賜物であり、110年経った今も形として残ってくれていること、そのこと自体が彼からのこの地への贈り物であり、財産であり、その精神を引き継ぎ地域への愛着や誇りをもってもらうことの一つの契機としてもらうべく伝えることができた。

この地を煉瓦倉庫をより愛してもらい、次のステージへ新たな拠点へと生まれ変わる吉野町煉瓦倉庫・新しい文化拠点をさらに次世代へとつないでいくため、それを盛り上げる機運の醸成に貢献できたものと考えている。

このことは、野外劇ならではの開放的な雰囲気や、夕日、実際の電車音や遮断機の警笛などを効果的に使い、様々な音響効果や、照明、印象的で美しいプロジェクションマッピング、参加者の心のこもった朗読、歌声、ダンス、情熱、なにより吉野町煉瓦倉庫の歴史とその佇まい、地域の方々に愛されているその想いが昇華し、表現されたことによって成し得たものと考えている。演じていただいた弘前市、五所川原の高校生、大学生はもちろん、そして観ていただいた方々の心に、演者と制作者の想いと、熱量とともに届いたものと思う。

実施にあたっては、公演日の前週 18 日 (月) に予定していた公開稽古が雨天により中止となる不幸があったが、参加者の情熱と主催者のご協力により、別日程での稽古の調整や自主稽古、本番にかける想いのもと、無事成功裡に終えることができたものである。このことがなよりの幸福であり、この地域の新たな自信と誇りを積み重ねるひとつとして、この業務の成功・効果となりえたものと考えている。

2. スタッフ、キャスト

※出演者詳細はチラシ参照

音楽：盛隆

映像：葛西薫 (ばやらぼ)

照明：浅沼昌弘 (株式会社アクト・ディヴァイス)

ドラマターグ：工藤千夏

宣伝美術：Griffe inc.(工藤規雄、渡辺佳奈子)

主催：弘前市

後援：弘前市教育委員会

企画・制作：なべげんわーく合同会社

協力：東北女子大学演劇部、弘前学院聖愛高等学校演劇部、青森県立木造高等学校演劇部
五所川原第一高等学校演劇部、青森県立青森中央高等学校高校演劇部、一般社団法人弘前芸術鑑賞会
渡辺源四郎商店

画像提供：青森県立郷土館、NPO 法人 harappa、公益財団法人青森県りんご協会、津軽書房、ならとしお、
ニッカウキスキー株式会社、長谷川正之、弘前芸術創造株式会社、弘前市立博物館、
弘前市立弘前図書館、福嶋家

●構成・演出 畑澤聖悟 プロフィール

劇団「渡辺源四郎商店」店主。劇作家・演出家。05年日本劇作家大会短編戯曲コンクールで『俺の屍を越えていけ』が最優秀賞を受賞。09年『親の顔が見たい』で第12回鶴屋南北戯曲賞ノミネート。ラジオドラマの脚本では文化庁芸術祭大賞など多数受賞。現役の高校教諭。指導した演劇部（青森中央高校、弘前中央高校）を9度の全国大会に導き、最優秀賞3回、優秀賞5回受賞。中高生向けのワークショップを全国各地で精力的に行っている。

3. 記録写真



吉野町緑地 仕込み/パート稽古



吉野町緑地 開場中

4. 新聞掲載

- ・「朗読や歌、ダンス堪能 煉瓦倉庫題材に野外劇」『陸奥新報』、2017年9月25日
- ・「「遺産受け継ぐ」若者ら野外劇」『東奥日報』、2017年9月27日
- ・川村香奈子（木造高校演劇部顧問）「演劇評/空間のすべてがアート」『東奥日報夕刊』、2017年10月20日